

ハシミジンコ属

*Pleuroxus*

解説

全体の殻の形は、シカクミジンコに似ていますが、吻は細長くして内向きに曲がっています。尾爪基部に2本の基刺をもつのが特徴です。

ハシミジンコ

*Pleuroxus trigonella*  
メスの大きさ  
約0.5mm



この種は、ここに2、3個のギザギザがあるのが特徴

マルミジンコ属

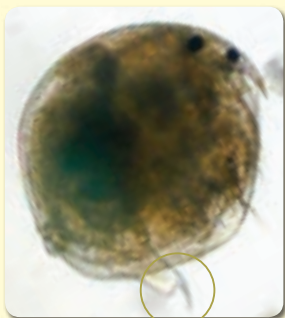
*Chydorus*

解説

名前のおり丸見えますが、ときには四角形に感じることもあります。

マルミジンコ

*Chydorus sphaericus*  
メスの大きさ  
0.3~0.4mm



肛刺の数は8~10本

(6) ノロのなかま

特徴

「ノロのなかま」と言っても、次の1種しかいません。

この図鑑にのせた属

ノロ属

ノロ属

*Leptodora*

解説

ミジンコのなかまの中でもっとも大きいプランクトンで体長は1cmほどになることがあります。一見ミジンコらしくなく透明な小エビのように見えるのが特徴ですが、これは殻が退化してしまっているからです。第2触角が太く、胴体は棒状で、端には1対の尾爪があります。頭にある1個の複眼も特徴的で、オバケの「一つ目小僧」を連想する子供もいます。

ノロ

*Leptodora kindtii*  
メスの大きさ 約10mm



1個の複眼



2 ケンミジンコのなかま

(カイアシ亜綱: COPEPODA)

「ケンミジンコのなかま」は、基本的に頭部、胸部、腹部の3つの部分からできていて、円筒状のロケットのような形をしています。第1触角の長さで、3つの「なかま」に分けることができます。

「ケンミジンコのなかま」の見分け方

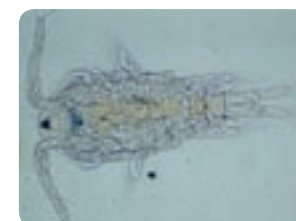
第1触角が頭胸部を越える	第1触角が頭胸部を越えない	第1触角がとても短い
<p>第1触角が頭胸部を越える</p>	<p>第1触角が頭胸部を越えない</p>	<p>第1触角がとても短い</p>
<p>第1触角が頭胸部を越える</p>	<p>第1触角が頭胸部を越えない</p>	<p>第1触角がとても短い</p>
ヒゲナガケンミジンコのなかま	ケンミジンコのなかま	ソコムジンコのなかま

増え方

オスとメスが受精してつくる受精卵によって増えます。卵が孵化すると、ノープリウス期(写真①)、コペポデイド期(写真②)という幼生期を経て成虫になります。この幼生期ではどのなかまも似ていて、種を見分けることはできません。



①ノープリウス期



②コペポデイド期

(1) ヒゲナガケンミジンコのなかま

特徴

とても長い触角をもっています。日本にはたくさんのヒゲナガケンミジンコのなかまがありますが、琵琶湖にはヤマトヒゲナガケンミジンコしか報告されていません。種類を見分けるためには、種ごとに特徴があるオスの右第1触角を高倍率で観察したり、解剖して足の形を調べなければならないため、この図鑑ではその1種だけを紹介します。

節足動物のなかま

## エオヒゲナガケンミジンコ属 *Eodiaptomus*

### 解説

オスの右第1触角の中間は太くなっているのに対して、メスはそのようにはなっていません。また、その第1触角の先端から3番目の節には、長い棒状の突起があります。ただ、この特徴はほかのヒゲナガケンミジンコにも当てはまるものがあるので、種類を特定するにはオスの右第5番目の足の形を調べなければなりません。

### ヤマトヒゲナガケンミジンコ

*Eodiaptomus japonicus*  
オスの大きさ 約1mm

中間が太い(第1触角)

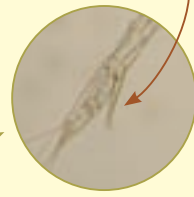


オス▼



メス▲

オス特有の棒状の突起



## (2)ケンミジンコのなかま

### 特徴

第1触角の端は胸部の端までとはとぎません。解剖してメスの腹部や足の形を調べなければならないため、種類の区別は困難です。しかし、オスは第1触角がくると曲がっている点で、すぐにメスとは区別がつかます。この図鑑では1種類だけ紹介します。

## アサガオケンミジンコ属 *Mesocyclops*

### 解説

貯精囊の形が、アサガオの葉の形に似ていることから名前がついています。しかし、よく似た形の受精囊をもつものはほかにもあります。この種の最大の特徴は、第1触角の最先端の節に切れ込みがあるうすい膜がある点です。

### アサガオケンミジンコ

*Mesocyclops leuckarti*  
メスの大きさ 0.9~1.7mm



切れ込みのある薄い膜



アサガオの葉の形の貯精囊 (縁取りした部分)

## (3)ソコミジンコのなかま

### 特徴

図鑑によっては、その形からツツガタケンミジンコという名前になっている場合があります。ソコミジンコという名前は、このなかまが湖や沼の底の泥の上をはうように動くところからつけられています。湖や沼だけでなく、湿ったコケの間や地下水、花の中にたまったわずかな水、森林の落ち葉の下にも生活しているものもいます。第1触角がとても短いのが特徴です。50種以上の種類がありますが、種類を決めるのはむずかしいためこの図鑑では紹介だけにしてあります。

ソコミジンコのなかまの一種  
HARPACTICOIDA  
個体の大きさ 0.5~1.0mm

第1触角が短い



卵

## 3 カイミジンコのなかま

(カイミシ亜綱: OSTRACODA)

### 解説

「カイミジンコのなかま」は、「カイミシ」とも呼ばれます。とても多くの種類がいるとされていますが、どの種類もとてもよく似ていて種類を決めるのがとてもむずかしいなかまです。この図鑑では、カイミジンコのなかまとして紹介します。光ることで有名なウミホタルは海にいるカイミジンコの1種です。

### 特徴

体は2枚の殻でおおわれています。殻の中から触角と足(遊泳肢)を出しています。とてもよく泳ぎ回り、植物や動物の死骸や固形物を食べます。どこでも観察することができますが、春から秋にかけて、水田やその周りの水路や池でとくによく観察されます。

カイミジンコのなかま  
OSTRACODA  
個体の大きさ 0.5~2.0mm

